

# 2022年度 大学入試を振り返る

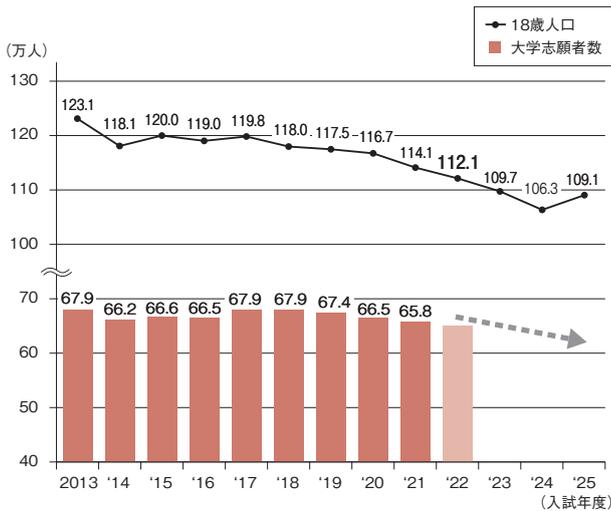
本誌4・5月号では、2022年度入試の速報として大学共通テスト（以下、共通テスト）の概況と国公立大、主要私立大の出願状況についてお伝えした。

このたび、全国の高等学校の先生方にご協力いただき、約185万件の貴重な入試結果調査（合否）データを集めることができた。本誌では、入試結果調査データと各大学から送付いただいた最終的な入試結果の集計結果を踏まえ、2022年度入試を総括する。個々の大学の入試結果については、本誌の15頁以降に掲載しているのので、ぜひご活用いただきたい。

## 受験人口の変化

### ●18歳人口は2万人減少、大学志願者数も緩やかに減少

【図表1】18歳人口と大学志願者数の推移



※文部科学省「学校基本調査」より作成、2022年度大学志願者数は河合塾推定

はじめに今春の受験環境について触れておく。【図表1】は、18歳人口と大学志願者数の推移をみたものである。18歳人口は減少期に入っており、2022年度は前年から約2万人減少した。現役生の大学志願者数は18歳人口に連動して減少したものの、人口減に比べ減少率は小幅だったと推測する。また、私立大の合格者数は2019年度以降増加しており、既卒生の大学志願者数は年々減少。今春は、より現役生中心の入試だったといえる。

今後の展望だが、18歳人口は2024年度には106万人まで減少する。2025年度は増加に転じるが、以降は大きく増えることはない。大学志願者数も同様に緩やかな減少が見込まれ、大学入試はますます競争緩和の時代に入っていく。

## 国公立大学

### ●前期日程は前年並み、中・後期日程では志願者が増加

ここから、国公立大の入試結果をみていく。前期日程の志願者数は前年並みを維持した【図表2】。共通テストの平均点ダウンの影響が懸念されたが、堅調に志願者は集まったといえる。後ほど触れるが、とくに国立難関大を中心に志願者が増加した。合格者数は前年から8百人増加したものの、倍率（志願者÷合格者。以下、特に記載がない場合は同じ）は2.6倍と前年から変化はなかった。

後期日程では、志願者数は前年比102%と増加し、前期日程以上に積極的な出願がみられた。一方、日程の廃止・縮小により募集人員が減員されたため、合格者数は前年比96%と減少、倍率は7.7倍にアップした。

【図表2】 国公立大入試結果 全体概況

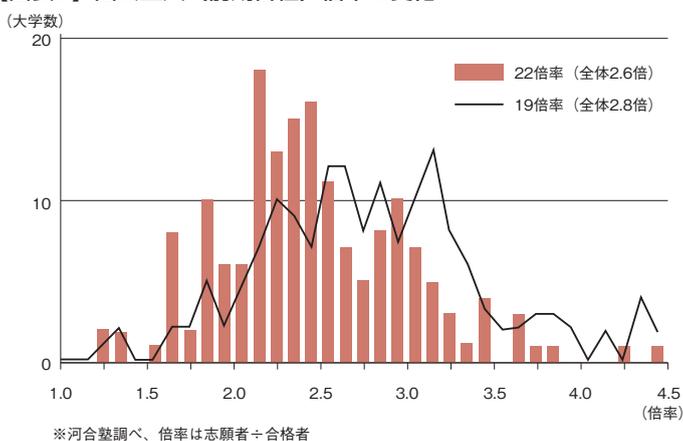
日程	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
前期	243,103	235,409	234,557	97%	100%	90,980	91,046	91,912	100%	101%	2.7	2.6	2.6
中期	31,426	29,090	31,380	93%	108%	4,735	5,081	4,831	107%	95%	6.6	5.7	6.5
後期	165,086	160,920	163,412	97%	102%	23,021	22,234	21,299	97%	96%	7.2	7.2	7.7
全体	439,615	425,419	429,349	97%	101%	118,736	118,361	118,042	100%	100%	3.7	3.6	3.6

※5月20日現在、河合塾調べ

中期日程では、志願者数は前年比108%と高い増加率となった。新設の**大阪公立大**や、今春新たに中期日程を実施した**前橋工科大**、**三条市立大**などに志願者が集まった影響が大きい。一方、合格者数は前年から5%減少した。2021年度入試で新型コロナウイルス感染症対策として個別試験を取りやめた大学が合格者数を大きく増やしていた反動によるもので、該当大を除く大学で比較すると増加した。倍率は5.7倍→6.5倍と上昇し、2020年度入試並みに戻る形となった。

## ●進む競争緩和、倍率はダウン傾向

【図表3】 国公立大（前期日程）倍率の変化



国公立大一般選抜のメインである前期日程をみると、志願者数・倍率ともに前年から大きな変化はないが、経年でみると着実に人口減の影響を受けている。前期日程全体の志願者数は、現行課程に移行した2015年度以降25.8万人前後で推移してきたが、2020年度入試で24.3万人まで減少した。【図表3】は、志願者が大きく減る前の2019年度と今春入試との倍率の変化をみたものである。2019年度の分布の山は2.5倍～3.5倍に位置しているのに対し、今春入試では2.0～2.5倍に位置する大学数が最も多く、全体的に低倍率側へシフトしている様子がわかる。前期日程全体ではわずか0.2ポイントの差ではあるが、個々の大学をみると倍率が下がった大学が目立ち、競争緩和の様相を呈している。

## ●文低理高の基調、就職・資格に関連深い系統が人気

【図表4】は国公立大前期日程の学部系統別の入試結果である。今春は、理系学部志願者が集まる様子がみられたほか、法律、獣医、医、薬といった難関資格に関連深い分野が高い人気を示した。

文系では、「文・人文」、「法・政治」学系が前年並みの志願者数となった。なかでも「法・法律」分野で志願者が大きく増加した。一方、「社会・国際」「経済・経営・商」学系では志願者の減少が目立ち、両系統とも倍率はダウンした。

理系では、「工」学系が前年を下回る志願者数だったものの、「理」「農」学系では堅調に志願者を集めた。なかでも「農」は前年比107%と全系統で最も高い増加率となり、倍率は2.5倍と「理」「工」に並ぶ形となった。

医療系では、「医」「薬」などで志願者が増加。「薬」は前年比109%と高い増加率となり、倍率は3.3倍にアップした。なお、「医」は後期日程でも志願者が増加。今春は富山大の後期日程廃止の影響もあり医学科全体の募集人員は前年から1割以上減ったが、敬遠要因にはならなかったようだ。倍率は14.9倍→17.0倍へと大きくアップした。

【図表4】国公立大（前期日程）学部系統別入試結果

学部系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
文・人文	21,946	20,560	20,473	94%	100%	8,037	8,137	8,145	101%	100%	2.7	2.5	2.5
社会・国際	13,031	12,867	12,261	99%	95%	4,933	4,968	5,056	101%	102%	2.6	2.6	2.4
法・政治	12,796	12,219	12,054	95%	99%	4,808	4,800	4,831	100%	101%	2.7	2.5	2.5
経済・経営・商	25,758	25,154	24,384	98%	97%	10,007	10,184	10,169	102%	100%	2.6	2.5	2.4
教育-教員養成課程	17,606	17,352	16,695	99%	96%	7,922	7,814	7,972	99%	102%	2.2	2.2	2.1
教育-総合科学課程	2,122	1,905	2,006	90%	105%	939	936	967	100%	103%	2.3	2.0	2.1
理	14,036	14,003	14,098	100%	101%	5,472	5,704	5,706	104%	100%	2.6	2.5	2.5
工	67,169	64,781	64,085	96%	99%	25,512	25,371	25,653	99%	101%	2.6	2.6	2.5
農	15,351	14,921	15,893	97%	107%	6,398	6,299	6,287	98%	100%	2.4	2.4	2.5
医・歯・薬・保健	34,762	35,133	35,895	101%	102%	11,447	11,525	11,871	101%	103%	3.0	3.0	3.0
医	14,741	14,773	15,087	100%	102%	3,721	3,765	3,809	101%	101%	4.0	3.9	4.0
歯	1,657	1,595	1,576	96%	99%	496	499	540	101%	108%	3.3	3.2	2.9
薬	2,620	2,851	3,120	109%	109%	864	921	932	107%	101%	3.0	3.1	3.3
看護	10,323	10,423	10,647	101%	102%	4,343	4,279	4,427	99%	103%	2.4	2.4	2.4
医療技術・他	5,421	5,491	5,465	101%	100%	2,023	2,061	2,163	102%	105%	2.7	2.7	2.5
生活科学	2,450	2,510	2,410	102%	96%	906	903	900	100%	100%	2.7	2.8	2.7
芸術・スポーツ科学	7,354	6,730	6,848	92%	102%	1,715	1,682	1,672	98%	99%	4.3	4.0	4.1
総合・環境・情報・人間	8,722	7,274	7,455	83%	102%	2,884	2,723	2,683	94%	99%	3.0	2.7	2.8
全体	243,103	235,409	234,557	97%	100%	90,980	91,046	91,912	100%	101%	2.7	2.6	2.6

※5月20日現在、河合塾調べ  
 ※学部系統の分類は河合塾による

●難関10大学 6大学で志願者が増加

【図表5】国立難関10大学（前期日程）入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
北海道	5,474	5,104	5,409	93%	106%	2,002	2,014	2,010	101%	100%	2.7	2.5	2.7
東北	4,384	4,499	4,392	103%	98%	1,759	1,714	1,733	97%	101%	2.5	2.6	2.5
東京	9,259	9,089	9,507	98%	105%	3,010	2,993	2,996	99%	100%	3.1	3.0	3.2
東京工業	3,790	3,638	3,802	96%	105%	944	967	973	102%	101%	4.0	3.8	3.9
一橋	2,490	2,564	2,588	103%	101%	880	869	888	99%	102%	2.8	3.0	2.9
名古屋	4,422	4,581	4,339	104%	95%	1,801	1,813	1,808	101%	100%	2.5	2.5	2.4
京都	7,347	7,045	7,210	96%	102%	2,725	2,725	2,743	100%	101%	2.7	2.6	2.6
大阪	7,462	6,991	7,501	94%	107%	3,107	3,069	3,102	99%	101%	2.4	2.3	2.4
神戸	5,569	6,194	6,071	111%	98%	2,047	2,052	2,056	100%	100%	2.7	3.0	3.0
九州	5,014	5,175	5,143	103%	99%	2,197	2,132	2,178	97%	102%	2.3	2.4	2.4
全体	55,211	54,880	55,962	99%	102%	20,472	20,348	20,487	99%	101%	2.7	2.7	2.7

※5月20日現在、河合塾調べ

国立難関10大学全体の前期日程の志願者数は、前年比102%と増加した【図表4】。準難関大・地域拠点大は前年並み、その他の国公立大では前年を下回る志願者数となっており、受験生が難関大に積極的に挑戦できた様子が見える。大学別にみると、北海道大、東京大、東京工業大、大阪大などでは高い増加率となった。

東京大では、志願者が4年ぶりに増加した。科類別でみると理科一類を除き志願者が増加。とくに理科二類では前年比113%と高い増加率となり、倍率は2020年・21年度の3.6倍→4.1倍へと上昇した。なお、東京大では2020年度入試以降、現役生志願者が占める割合が上昇しており、現役合格の可能性は年々高まっている。来春も積極的な挑戦に期待したい。

京都大は、9年ぶりの志願者増となった。学部別にみると工、農、薬学部など理系学部を中心に志願者が増加した。工学部は平均点が下がった共通テスト数学、理科を合否判定に使用しないため、志願者が集中したものみえる。なかでも人気分野の情報学科は前年比114%と大きく増加し、2次ランクは0ランク（偏差値67.5）と前年から1ランクアップした。

# 私立大学

## ●志願者数は前年並み 合格者数増加で競争緩和進む

【図表6】私立大入試結果 全体概況

方式別	期別	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
		20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
一般	共通テスト	2,570,547	2,147,027	2,150,120	84%	100%	623,628	657,803	693,990	105%	106%	4.1	3.3	3.1
	共通テスト	1,195,078	1,073,009	1,069,823	90%	100%	369,520	395,589	430,038	107%	109%	3.2	2.7	2.5
一期	一期	3,431,871	2,981,122	3,000,127	87%	101%	900,849	973,813	1,056,260	108%	108%	3.8	3.1	2.8
	二期	333,754	238,914	219,816	72%	92%	92,299	79,579	67,768	86%	85%	3.6	3.0	3.2
全体		3,765,625	3,220,036	3,219,943	86%	100%	993,148	1,053,392	1,124,028	106%	107%	3.8	3.1	2.9

※5月20日現在、河合塾調べ、私立553大学の集計  
 ※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く  
 ※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

私立大一般選抜の志願者数（延べ数：以降すべて同じ）は前年並みとなった【図表6】。方式別にみても一般方式、共通テスト利用方式ともに前年比100%と、方式による違いはみられない。河合塾の入試結果調査データによると、私立大における受験生1人あたりの受験校数は4.35校→4.43校と若干増加した。一度の出願で複数の学部・学科を併願できる制度をもつ大学が増えており、出願校数の増加につながったようだ。

期別にみると、一期の志願者数は前年並みとなったが、二期は前年比92%と減少率が高い。一期の合格者数は前年比108%と大幅に増加しており、一期で合格を勝ち取り、二期まで出願を行わなかった受験生が多かったと推測される。

合格者数については私立大全体で前年比107%、人数にして70,636人の増加となった。2019年度入試以降、4年連続の増加である。志願者数は前年並みであったのに対して合格者数が増加したため、倍率（志願者÷合格者）は3.1倍→2.9倍とわずかにダウンした。18歳人口の減少、大学の入学定員増などにより受験生にとって合格しやすい状況になっており、私立大入試の競争緩和はさらに進んだものとみられる。

## ●首都圏、近畿は地方からの志願者増加 都市部と地方の倍率格差は縮小

【図表7】私立大 地区別入試結果

地区	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
北海道	40,435	34,095	36,215	84%	106%	21,495	18,981	20,189	88%	106%	1.9	1.8	1.8
東北	39,014	35,953	38,175	92%	106%	18,508	18,425	19,598	100%	106%	2.1	2.0	1.9
関東・甲信越(首都圏除く)	48,759	43,953	41,563	90%	95%	16,361	16,230	16,176	99%	100%	3.0	2.7	2.6
首都圏	2,131,628	1,837,152	1,844,263	86%	100%	497,554	536,098	591,784	108%	110%	4.3	3.4	3.1
北陸	30,706	25,394	23,873	83%	94%	11,671	12,041	12,522	103%	104%	2.6	2.1	1.9
東海	337,907	281,570	266,233	83%	95%	110,902	114,457	113,941	103%	100%	3.0	2.5	2.3
近畿	913,203	767,325	778,758	84%	101%	229,992	247,819	259,991	108%	105%	4.0	3.1	3.0
中国	56,287	50,071	46,638	89%	93%	25,493	25,686	25,544	101%	99%	2.2	1.9	1.8
四国	10,211	8,874	9,208	87%	104%	6,066	6,653	6,825	110%	103%	1.7	1.3	1.3
九州	157,475	135,649	135,017	86%	100%	55,106	57,002	57,458	103%	101%	2.9	2.4	2.3
全体	3,765,625	3,220,036	3,219,943	86%	100%	993,148	1,053,392	1,124,028	106%	107%	3.8	3.1	2.9

※5月20日現在、河合塾調べ、私立553大学の集計  
 ※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く  
 ※過年度の集計には公立大学法人へ移行した大学の数値を含む

【図表7】は私立大の地区別の入試結果である。首都圏、近畿の二大都市圏では志願者数は前年並みだが、関東・甲信越、北陸、東海、中国地区では志願者減少が目立つ。入試結果調査データで地区内の受験生の志望動向をみると、これらの地区では他地区の大学、特に首都圏や近畿地区の大学に出願した受験生の割合が増えている。

2021年度入試では都市部の大学を敬遠する傾向が顕著だったが、今春は地元志向が緩和された様子が見える。

合格者数に目を向けると、増加した地区が目立つ。なかでも首都圏の合格者数は前年比110%と私立大全体の増加率を上回っており、倍率は前年の3.4倍→3.1倍にダウンした。私立大一般選抜の倍率が高騰した2019年度入試では3.1ポイントの開きがあった都市部と地方の倍率格差は、今春1.8ポイントにまで縮小した。

## ●就職を意識した系統選びが顕著

【図表8】 私立大 学部系統別入試結果

学部系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
文・人文	697,900	571,597	544,399	82%	95%	187,337	197,673	214,822	106%	109%	3.7	2.9	2.5
社会・国際	381,451	321,924	316,407	84%	98%	97,410	105,310	115,798	108%	110%	3.9	3.1	2.7
法・政治	267,023	229,041	245,716	86%	107%	74,517	81,162	85,735	109%	106%	3.6	2.8	2.9
経済・経営・商	787,149	665,277	643,367	85%	97%	181,638	198,740	216,631	109%	109%	4.3	3.3	3.0
理	142,344	123,211	126,440	87%	103%	44,920	47,942	50,491	107%	105%	3.2	2.6	2.5
工	723,252	648,997	692,894	90%	107%	191,602	210,040	228,296	110%	109%	3.8	3.1	3.0
農	102,844	82,753	83,685	80%	101%	36,308	33,341	33,622	92%	101%	2.8	2.5	2.5
医・歯・薬・保健	334,518	297,501	293,823	89%	99%	87,666	85,869	85,307	98%	99%	3.8	3.5	3.4
医	100,610	91,225	90,269	91%	99%	6,862	7,067	7,067	103%	100%	14.7	12.9	12.8
歯	7,222	5,725	5,973	79%	104%	2,824	2,468	2,807	87%	114%	2.6	2.3	2.1
薬	68,514	60,434	62,969	88%	104%	25,090	25,327	25,236	101%	100%	2.7	2.4	2.5
看護	82,423	73,896	71,723	90%	97%	26,887	25,604	25,576	95%	100%	3.1	2.9	2.8
医療技術・他	75,749	66,221	62,889	87%	95%	26,003	25,403	24,621	98%	97%	2.9	2.6	2.6
生活科学	70,266	56,499	53,971	80%	96%	29,034	26,497	24,090	91%	91%	2.4	2.1	2.2
芸術・スポーツ科学	110,335	92,957	91,084	84%	98%	29,879	31,992	30,959	107%	97%	3.7	2.9	2.9
総合・環境・情報・人間	148,543	130,279	128,156	88%	98%	32,837	34,826	38,238	106%	110%	4.5	3.7	3.4
全体	3,765,625	3,220,036	3,219,942	86%	100%	993,148	1,053,392	1,123,989	106%	107%	3.8	3.1	2.9

※5月20日現在、河合塾調べ、私立553大学の集計

※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

※入試方式により大学計しか公表しない大学があるため、「全体」の数値は他の集計の合計と一致しない

【図表8】は私立大の学部系統別の入試結果である。学部系統別の状況は国公立大と同様に、就職や職業、資格を意識した分野が高い人気を集めている。

文系は「法・政治」学系を除くすべての系統で志願者減となった。特に文・人文学系の「外国語」分野は前年比86%と3年連続で志願者が大幅に減少し、倍率はこの3年で3.5倍→2.5倍→1.9倍と大きくダウンした。

一方、理系ではすべての系統で志願者が増加。医療系では「歯」「薬」での志願者増加が目立つ。近年、学部・学科の新設が相次ぐ「看護」は前年比97%と4年連続の志願者減となった。

合格者数に目を転じると、文系学部での増加率が高く、志願者が増加した「法・政治」を除くすべての系統で倍率がダウンしている。入試結果調査データをもとに河合塾が設定したボーダーランクのアップダウン状況を見ると、理系学部よりも文系学部でのランクダウンの割合が高く、5割の募集区分で易化がみられた。

## ●難関大は志願者・合格者ともに増加

【図表9】は各地区の拠点大や定員規模の大きい主な大学の状況をまとめたもの。志願者数が10万人を超えた大学は千葉工業大、法政大、明治大、近畿大の4大学であった。なかでも千葉工業大は、前年から3万人志願者が増加した。共通テスト利用方式の受験料免除や併願割引制度などで志願者が集まったようだ。近畿大は新設の情報学部で志願者が集まった影響が大きく、情報学部の倍率は10.4倍と医学部に次ぐ高倍率となった。

大学グループごとの志願者数をみると、首都女子14大学を除くすべてのグループで志願者は増加。「早慶上理」は前年比102%、「MARCH」は同103%、「関関同立」は同105%と、堅調に志願者を集めており、国公立大同様、難関大志向がみられる。

合格者数はいずれの大学グループでも増加した。前年より合格者数が大きく増えたのは千葉工業大(+11,331人)、関西学院大(+3,385人)、法政大(+2,953人)、東洋大(+2,607人)、近畿大(+2,392人)などである。合格者数が大きく増加した大学では倍率がダウンし、ボーダーランクが下がった区分が散見された。

【図表9】私立大 主な大学の入試結果

大学	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22	21/20	22/21	20	21	22
早慶上理	225,541	203,911	207,992	90%	102%	44,306	47,214	49,139	107%	104%	5.1	4.3	4.2
慶應義塾	38,454	36,681	37,894	95%	103%	8,590	9,327	9,975	109%	107%	4.5	3.9	3.8
上智	26,156	26,270	22,503	100%	86%	5,476	6,776	7,153	124%	106%	4.8	3.9	3.1
東京理科	56,355	49,301	53,752	87%	109%	15,727	16,579	16,990	105%	102%	3.6	3.0	3.2
早稲田	104,576	91,659	93,843	88%	102%	14,513	14,532	15,021	100%	103%	7.2	6.3	6.2
MARCH	412,269	374,558	386,049	91%	103%	78,335	89,137	94,551	114%	106%	5.3	4.2	4.1
青山学院	57,822	40,123	47,839	69%	119%	8,262	9,884	10,787	120%	109%	7.0	4.1	4.4
中央	86,476	78,534	64,795	91%	83%	17,026	19,829	18,589	116%	94%	5.1	4.0	3.5
法政	103,628	90,956	108,343	88%	119%	18,591	20,033	22,986	108%	115%	5.6	4.5	4.7
明治	103,035	99,470	102,426	97%	103%	22,304	24,732	26,688	111%	108%	4.6	4.0	3.8
立教	61,308	65,475	62,646	107%	96%	12,152	14,659	15,501	121%	106%	5.0	4.5	4.0
成成明國武	101,998	86,684	93,898	85%	108%	21,673	24,882	28,933	115%	116%	4.7	3.5	3.2
國學院	25,948	19,345	21,533	75%	111%	4,446	4,985	5,977	112%	120%	5.8	3.9	3.6
成蹊	21,836	18,641	19,475	85%	104%	4,660	5,398	5,864	116%	109%	4.7	3.5	3.3
成城	14,424	13,673	15,696	95%	115%	4,370	4,677	5,284	107%	113%	3.3	2.9	3.0
武蔵	18,802	14,661	17,565	78%	120%	3,252	3,867	4,726	119%	122%	5.8	3.8	3.7
明治学院	20,988	20,364	19,629	97%	96%	4,945	5,955	7,082	120%	119%	4.2	3.4	2.8
日東駒専	295,527	265,039	267,779	90%	101%	80,806	86,248	92,444	107%	107%	3.7	3.1	2.9
駒澤	28,825	29,902	29,201	104%	98%	8,139	9,130	10,339	112%	113%	3.5	3.3	2.8
専修	51,024	47,381	46,547	93%	98%	11,559	13,650	15,119	118%	111%	4.4	3.5	3.1
東洋	101,776	89,808	98,261	88%	109%	27,048	27,731	30,338	103%	109%	3.8	3.2	3.2
日本	113,902	97,948	93,770	86%	96%	34,060	35,737	36,648	105%	103%	3.3	2.7	2.6
首都圏理系10大学	303,823	283,622	309,986	93%	109%	69,782	74,575	88,412	107%	119%	4.4	3.8	3.5
首都圏女子14大学	75,083	60,113	56,923	80%	95%	25,422	25,953	26,955	102%	104%	3.0	2.3	2.1
関関同立	274,449	241,121	252,110	88%	105%	72,207	79,006	85,050	109%	108%	3.8	3.1	3.0
同志社	49,946	44,481	45,854	89%	103%	15,412	15,804	16,412	103%	104%	3.2	2.8	2.8
立命館	103,669	83,512	88,335	81%	106%	30,962	31,943	32,627	103%	102%	3.3	2.6	2.7
関西	87,625	79,511	79,184	91%	100%	16,189	18,815	20,182	116%	107%	5.4	4.2	3.9
関西学院	33,209	33,617	38,737	101%	115%	9,644	12,444	15,829	129%	127%	3.4	2.7	2.4
産近甲龍	273,850	248,128	265,737	91%	107%	61,040	71,429	76,976	117%	108%	4.5	3.5	3.5
京都産業	56,220	40,925	37,735	73%	92%	9,834	11,340	12,227	115%	108%	5.7	3.6	3.1
龍谷	53,281	56,379	55,880	106%	99%	12,625	17,835	19,553	141%	110%	4.2	3.2	2.9
近畿	145,350	135,979	157,434	94%	116%	34,035	37,091	39,483	109%	106%	4.3	3.7	4.0
甲南	18,999	14,845	14,688	78%	99%	4,546	5,163	5,713	114%	111%	4.2	2.9	2.6
北星学園・北海学園	11,235	9,375	9,947	83%	106%	5,238	5,109	5,627	98%	110%	2.1	1.8	1.8
東北学院	9,938	9,891	13,010	100%	132%	4,588	5,114	6,380	111%	125%	2.2	1.9	2.0
南山・愛知・中京・名城	122,464	107,343	112,712	88%	105%	39,396	42,889	43,209	109%	101%	3.1	2.5	2.6
西南学院・福岡	73,407	61,505	62,354	84%	101%	18,972	20,834	21,195	110%	102%	3.9	3.0	2.9

※5月20日現在、河合塾調べ

※いずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く

首都圏理系10大学：千葉工業・北里・工学院・芝浦工業・東京工科・東京電機・東京都市・東京農業・麻布・神奈川工科

首都圏女子14大学：大妻女子・学習院女子・共立女子・白百合女子・実践女子・昭和女子・聖心女子・清泉女子・津田塾・東京家政・東京女子・日本女子・東洋英和女学院・フェリス女学院

来春入試の展望だが、受験人口は緩やかながらも減少する。入学者数確保のため合格者数を増やす動きは今後も続くだろう。私立大では入学定員増や学部新設の動きもあり、受験生にとってはますます追い風の状況が続く。志望大学への積極的な挑戦に期待したい。

入試結果の詳細については各大学のホームページをご確認いただきたい。

2023年度入試のトピックスについては「ガイドライン9月号」にてご報告する予定です。

河合塾の大学入試情報サイトKei-Netでは、2023年度入試の変更点や学部・学科の新増設の状況など、最新の入試情報を掲載しています。ぜひご利用ください。

URL = [www.keinet.ne.jp/exam/future/](http://www.keinet.ne.jp/exam/future/)